

富山市立芝園小学校グラウンド芝生化について ～PFI 事業制度活用事例～

山本 栄

株式会社サカエグリーン

Challenging turfled school ground at Shibazono Elementary School in Toyama City

～Case study by PFI business system ～

Sakae YAMAMOTO

SAKAE GREEN CORPORATION

1. 事業の概要

富山市の PFI 事業「芝園小学校及び芝園中学校設計・建設・維持管理事業」において、富山市立芝園小学校のグラウンドを芝生化した。芝生化には種子による芝草導入手法を用いた。

2. PFI 事業について

PFI (Private Finance Initiative : 民間資金等活用事業) は、民間の資金と経営能力・技術力 (ノウハウ) を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法である。1990 年代前半に英国で誕生し、日本では 1999 (H11) 年に PFI 法が制定、翌年に基本方針が告示された。2019 年度までの事業数は 818 件となっている。安くて優れた品質の公共サービスの提供を実現することが目的で、設計から維持管理までを一括して行う“長期契約”、性能を満たしていれば細かな手法は問わない“性能発注”等が特徴である。業者の選定に際しては、VFM (Value for Money : 財政支出価値) が高いもの、つまり支払いに対して最も価値の高いサービスを提供することができるものが選ばれる。価格だけでなく企業の持つノウハウや事業計画の内容についても評価が必要なため、選定に時間を要するのが難点である。また、民間に幅広い業務を任せるため、公共サービスの品質が低下しないよう、行政が民間の業務状況を把握して、管理や指導を行っていく必要がある。

3. 富山市 PFI 事業「芝園小学校及び芝園中学校設計・建設・維持管理事業」の経緯

少子化の影響を受け、2005 (H17) 年～2008 (H20) 年にかけて市内の小学校 4 校が統合し、芝園小学校として富山市の中心部に新たに校舎を新設し移転することとなった。本事業は富山市が PFI 事業として実施し、2005 (H17) 年 1 月より説明会などを経て、6 月に公募があり (応募企業数 6)、12 月に清水建設グループによって落札された (市が直接事業を実施する場合と比較して、財政負担額は約 31.8%削減された)。これにより、グラウンドが芝生化されることとなり、当社が芝生化と管理を担当することとなった。業務期間は 2008 (H20) 年 4 月より 2023 (R5) 年 3 月までの 15 年間である。

4. グラウンドの芝生化と管理

芝生化には種子による芝草導入手法を用いることとし、2008 (H20) 年 4 月の開校にむけて、同 3 月に寒地型芝草 (ケンタッキーブルーグラスとトールフェスク) を播種 (2800 m²)、養生期間は設けず、利用を止めずに施工した。芝生グラウンドは主に小学生に利用されるが、当初 1 人あたりの利用面積 (芝生面積を利用者数で割った値) は約 6 m²/人 (適正値は 10 m²以上/人) だったため、踏圧ストレスにより発芽が遅れ、発芽後も芝密度が不均一な状態が続いた。追加の播種、補修、立入禁止区域の設定、グラウンドを東西に分け交互に使用する等の対策により、芝密度の向上を図った。管理は基本的に週 1 回、芝刈・施肥・灌水・目土・エアレーション・播種等を必要に応じて行い、加えて月 1 回の定期点検、年 1 回の土壌診断を行う。管理の方針は『利用の妨げにならない』『農薬を極力使用しない (有機質肥料・微生物資材の使用)』『発生材の利用 (芝粕を堆肥化)』である。



2008 年 3 月播種直後



2008 年 5 月



2009 年 5 月



2010 年 4 月

写真-1 芝生の変化